

② 「取ってくださいか?」と「取ってもらえますか?」

——あなたの行動なのか、わたしの行動なのか?

②

A それ、取ってくださいか?

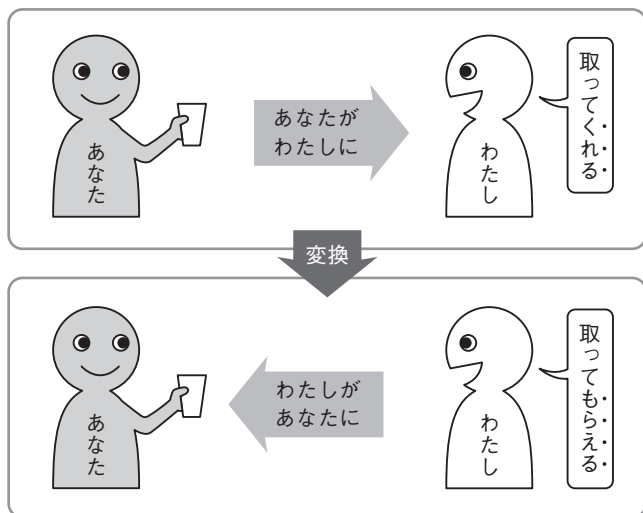
B それ、取ってもらえますか?

AとBの違いは、「〜てくれる」を使うか「〜てもらえる」を用いるかの違いです。

AもBも、「それを取る」のは、自分ではなくて相手です。「してくれる」「してもらえ  
る」というのは、だれが、だれに、という人間関係と、だれが、だれに「してくれる」の  
か、だれが、だれに「してもらえる」のかといった恩恵の方向を示すために用いられてい

ます。「取ってくれる」は、「取る」のも「取っ」てくれる」のも相手の動作となる、つまり、「(あなたが)取る」、「(あなたがわたしに取っ)てくれる」ということになります。それに対して、「取ってもらえる」は、「取る」のは相手ですが、「(取っ)てもらえる」のは自分の動作となる、つまり、「(あなたが)取る」、「(わたしがあなたに取っ)てもらえる」という点が大きな違いとなるわけです。

これは、事実としての問題ではなく表現上の問題なので、少しわかりにくいかもしれませんが、事実として「取る」のは、もちろん「あなた」なので、AもBもどちらも、あなたが「取る」ことをお願いしているわけですが、「取ってくれる」がそのことを表現としても直接示しているのに対して、「取ってもらえる」は、「わたし」が取ってもらえるかどうかを尋ねるといふ表現に変えています。つまり、「取ってもらえますか？」は、「あなたが取ってくれる」から「わたし(が取ってもらえる)」へと変換した表現になるということなのです。



これが何を意味しているのかというと、もちろん「あなたが取ってくれる」のだけれど、それを「わたしが取ってもらえる」に切り替えることで、「あなたがしてくれるかどうか」を尋ねているのではなく、「わたしがしてもらえるかどうか」を尋ねている、つまり、あなたの意思や行動を問題にしているのではなく、わたしがあなたからの恩恵を受けられるかどうかを尋ねているという表現にすることで、より丁寧にしようとしているのだ、ということですよ。

こうした違いは、ほんの小さな差のように見えるかもしれませんが、この「あなた

の行動をわたしの行動に切り替える」という表現上の工夫は、本質的に重要な点であって、そのため、「くてもらう」「くてもらえる」が、実際に多用されていることにもつながっているのだと考えられます。

## ポイント

・相手に行動させるのではなく、自分が行動する(かのように表現する)ほうが丁寧になる。